

電力・ガス取引監視等委員会
送配電網の維持・運用費用の負担の在り方検討WG殿

資料 4

太陽光発電の安定的な普及導入につながる 送配電網の維持運用について

平成29年4月11日
一般社団法人太陽光発電協会

1. 系統接続・運用にかかわる太陽光発電の現状
について
2. 太陽光発電の今後の安定的な普及導入につながる公平で公正な系統運用・費用負担について

1. 系統接続・運用にかかわる太陽光発電の現状
について
2. 太陽光発電の今後の安定的な普及導入につながる公平で公正な系統運用・費用負担について

1. 系統運用にかかる太陽光発電の現状について

太陽光発電の導入時のメリット

- ① 地域偏在性の少ないエネルギーである。
- ② 発電開始に至るまでの期間が比較的短い。

2012年7月施行のFIT制度により、広く導入が進む。
2016年11月末時点、FIT開始後、約31.5GWが導入された。

さらなる導入が必要とされている中、様々な課題が発生。
電力系統関連の課題、国民負担軽減、持続的な発電の促進

改正FIT法による課題解決へ

- ①出力制御(抑制)及び「接続可能量」の問題
- ②系統接続にかかる制約の問題(接続、コスト負担等)
- ③太陽光発電等の再エネ電力の利活用の問題

1. 系統接続・運用にかかわる太陽光発電の現状について
2. 太陽光発電の今後の安定的な普及導入につながる公平で公正な系統運用・費用負担について

論点① 送配電網の効率的利用の促進

系統接続時の負担の軽減

- 電源接続時の工事費負担金(基幹系統のみならず下位系統を含め)の一般負担化の早期実現
現行のルールでは、既存電源に関しては系統接続時の系統増強費用等を発電事業者が会計上負担していないケースがある。一方、新規電源は、基幹系統に関する増強費に関しては一般負担の上限を超える金額、並びに下位系統の増強費用の全額負担が求められる。
- 新規電源の系統接続に関するルールの見直し
現行のルールでは、新規電源が系統への接続を希望する際、系統に空き容量が無い限り接続が認められず、接続の許可を得るには、空き容量確保のための増強工事費用の一部負担と増強工事完了が前提となっている。先着優先を基本とした現行のルールを改め、系統に空き容量が無い場合でも、混雑が発生した場合に処理を行うことを前提に、新規電源の接続を可能とするルールとすべきではないか。なお、現行のルールを変更する際は、ルール変更により間接オークション方式に移行する地域間連系線の利用ルールを参考にしてはどうか。

論点② 電源側による託送料金の負担について

- FIT制度により固定買取価格が保証された電源については、経済性に一切影響しないことを大前提とするべき。
- また、住宅用太陽光発電については、FIT期間中、FIT期間終了後に関わらず対象外とするべき。
- 再生可能エネルギー等の設備利用率の低い電源が不利にならないようにするべき。
- 需要地設置の分散電源による潮流改善、送配電ロスの低減等のプラス効果を評価した十分なインセンティブを設けるべき。

論点③ 蓄電池、IoTなどを活用したネットワークの高度利用の推進

ネットワークの高度利用の推進

- 先の系統接続の課題解決のためにも、系統情報の公開、特にローカル問題の解消のため、実際の混雑状況を把握できる潮流の実績データの情報の開示等が必要である。
- 太陽光などの分散型電源の電力活用を推進するアグリゲーションビジネスに資する制度、技術の導入を進めること。

ご清聴、ありがとうございました。

一般社団法人 太陽光発電協会

<http://www.jpea.gr.jp/>